

釧新郷士芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□下□

開き、社中を発足して五年目に初めて発表会を開いた。「古典物を主にプログラムを組み、私は滝夜叉姫、光圀に真澄師匠で「将門」を出したのが、思い出深い」という。

振りつけ、釧路市主催の「金婚式慶祝会」で毎年「祝賀の舞」を披露している。

印刷所を営む夫の徳雄さんと結婚して「いつの間にか銀婚式も過ぎました。踊りの師匠として、何とか一人立ち出来たのも夫のおかげ。夫は公演間近になると、包丁を私に使わせないように、台所仕事の魚などは全部、料理してくれる。私の体調が崩れるのを心配してくれるのでしよう、こういうことが、いまの私を支えてくれている」と、感謝の心を忘れない。

後進の指導に打ち込む

「大変、有難いことです。これを契機にして、一層精進したい」と、藤間流日舞教授、藤間真三代さんは表情を引きしめている。子供の頃から粋な舞姿にあこがれ、この道に志してから二十年。いま名取十四人を含め、大勢の弟子を

養成する師匠として、厳しい指導に打ち込んでいる。真三代さんは十勝浦幌の出身。十八歳の時来釧した。その願いからだ。寂しさを噛みしめながら、坂東流、花柳流の二年前、両親やきょうだいに

精進重ね着実に成果

ブラジル公演で親善も

教授になったのが五十年。

けい古場は幸町、浪花町、現在は若松町で自己の芸道研さんと、後進たちへの指導に余念がない。お正月の初さらい、夏のゆかたさらいは毎年

支えてくれる夫に感謝の心

六十年には同社中、二十周年記念公演を催し、真三代さんは「驚娘」を踊り、着実に精進の成果を見せた。そして今年六月、ブラジル・サンパウロのモジ市で開かれた移民八十周年記念のチャリティー公演に参加、「藤娘」など古典曲、民謡、歌謡曲などで、日本舞踊の粋を見せ、また、現地の人たちにも指導し「友好親善」の役を果たしてきた。このほか「釧路消防音頭」の



「これを契機に一層精進したいと」受賞の喜びを語る藤間真三代さん

日本舞踊

藤間 真三代さん(四八)

釧路市若松町7の12



木崎征夫

